夕刊 磐城新聞
十一月四日發行
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇六五八五番

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩は北西の風晴
明日は南東の風晴

閑語句漫筆集稿

龍門寺藏 龍門開山青岑和尚傳 (10)

大井川幸隆

師の字は青岑、諱を珠應と云ふ。延文元（人王九十九代後光嚴院即位五年）丙申年夏四月、武州玉崎の平氏に生る。初め其の母深く岩戸の觀音菩薩を尊奉し日に普門品三十三卷を讀誦する禮拜供養を專らにせり。夜夢に普應有り、忽ち稚んで空より降る。而して內に投ず。遂に懷姙以て師が生む。因て之れを名づけるに青岑珠應を以てする也。師幼にして穎敏乃ち行餘之れを學ぶ。儒典を渉獵し諸史百家搜抉せざる莫し。時人以て奇童と爲す。乃ちその弱冠となるに及んでは深く離塵脱白の志を懷だき途に春岩和尚に禮し以て師となす。而して剃髪具を受く。岩掌一見して歎じて曰く、此の兒向後必ず以て法海の津梁となるあらん矣。時に明林宗の請あり、曾て高く法幢を建て大いに宗旨を豎つ。その新豐秘曲にして韻調高古なり。師嘗て竊かに之を慕ふ。因て岩公示寂の後ち途に去り哲公に投ず、參學勉め努力寢食を倶に忘れ晝夜端坐して脇の席に着かず。師嘗て一日請和尚に問ふ師本來の話を擧げて聞く。忽然猛省乃ち直ちに進んで詰和尚の前に至る。哲曰く、汝ち這個麼に會すや、師曰く、會と會はざるも都べて來れば是れ錯なり。哲曰く、畢竟作麼生と、師曰く、翡翠踏飜荷葉雨なし、哲乃ち杖を擲つ曰く、恁麼去い、師即ち禮し重ねて所解を宜べんと欲す。而して偈を呈して曰く

剎那勘破本來人
幼化爲身面目眞
古渡頭邊不留住
珠應本是舍那身

哲曰く、是くの如し々々々。師遂に詰公の嗣子と爲る。果して岩公の驟記するところに違はず佛海に津梁たり。而して陰凉峒林、釋迦牟尼如來第六十世の法燈を北越に挑げ、永平元古佛第十世の傳光は東奧に輝ける也。而して又復た天童の語々錄及び投子遺語に參研す（永平元之れを孤雲懐弉に傳へ懐弉之れを徹通義介に傳へ、義介之れを瑩山紹瑾に傳へ、紹瑾之れを峨山紹碩に傳へ、紹碩之れを太源宗眞に傳へ、宗眞之れを呆山閑本に傳へ閑本之れを太初繼覺に傳へ繼覺之れを明林宗謐に傳ふ宗テッ之れを青岑珠應に傳ふ即ち是れ永平第十世の法孫なり而して又曾つて業を春岩和尚に受くる也、復天童投子の秘參要語直筆は今尚ほ有り、傳光錄二卷を存するは開祖の正筆也）

後ち更、勢州淺間嶽に遊歷、虛空藏菩薩を參禮し、遂に北宿す。夜半忽ち一雙の白光有り、赫耀として堂宇を照す師即ち寶龕を聖仰す。則ち寶龕自然に開發す而し衣冠の神童彷彿として前に在りて現じ、從容として師に告げて曰く、汝ち是れより去つて東方に行けば、必ずや護法大檀越の以て助化する有らん。

何か殘して行つてはくれないか
こんなに淋しい夜だ
『忘れて言つた』と
いはれてもいゝから
花の香りと月の明かりでも。

その日〳〵

11月5日
△狩野芳崖歿（明治二一）△島村抱月歿（大正八）△片山潜歿（昭和八）△日滿治外法權撤廢條約調印（同一二）

○

凡そ書を讀むに流覽十過は熟覽一過に如かず　伊東東崖

秋と心と（上）

佐藤清長

一人なのか、二人なのか
淋しいぞ
爪彈きばかり
◇
秋風にひたり
秋風にむせぶ落葉は
からからと、からからと
ひまもない
◇
閑寂と云ふものか
桐のすさんだ枝をすかし
月の昇りがあり
私のひもじい詩想はそは
そはとして來る
◇
それにいゝ月だ
ペンもあるし、紙もある
し
◇
仰げば翠、悠々と
蒼穹に
在り！
無し！
◇
虫鳴けば
花咲けば
その心
なじみ、なづます
淚！
◇

平局俳黎會（十月句會其六）

○秋刀魚燒く若き母なり子をよべる　麗月
○秋刀魚大漁海女群れ騒ぎ舟を待つ　華丘
○夕食の卓和やかに初秋刀魚　果秋
○みづ〳〵し燒ける秋刀魚に柚子の味　碧笑
○香盤にひいやりと秋刀魚置かれゐる　碧笑
○秋刀魚呼ぶ街頭未だ暮れぬらし　麗月
○一人居の秋刀魚燒き居つ山の温泉宿　三因
○店頭に秋刀魚の走り目、青く　醉夢
○その脂に燒き燒かれ居る秋刀魚かな　水明
○秋刀魚燒く火、妻の頰赤く映ゆ　[illegible]

賀友部泉譲長見表旌　珠雲　小野綏平

温恭篤實教授勵
愛撫下條如弟兄
三十年來持操節
果然今日見彰旌

講談

隱密天狗（あんみつてんぐ）(163)

中川雨之氏作　近藤[illegible]氏畫

不平失望

『柴田氏。どんなに考へてみてもお頭の氣持は、頓と拙者には分らない』

座に着くが早いか、忠彌はもう不平を溢し始めた。

不平不滿は、殆ど、つきものとなつてゐる忠彌のことだから、三郎兵衞も一向に驚かない、肚の中でまだ始まつたと思つた。

『なにか、氣に喰はぬことでも、あつたと見えるのう。……』

三郎兵衞は苦笑した。

『ありますとも。實は斯う譯です』

と、忠彌はそこで、軍用金三萬兩割當の一伍一什を、不平らしく物語つた。

そして、最後に。

『どうです柴田氏、僅か三萬兩ぐらゐで、江戸市中撹亂の大仕事が行はれるでせうか、拙者の後見として、共に働いてくださる貴殿の御意見はどうです』

といつた。

三郎兵衞も、無論自分と同感だらうと、思ひ決めて居る忠彌であつた。

だから場合に依り、三郎兵衞を引ばり出し、彼にも正雪を說かせて、せめて七、八萬兩は出させたいものだといふ魂膽であつた。

ところが、忠彌の話を、ぢつと聽いてゐた三郎兵衞は、聽き畢るとほつと溜息をついて。

『しかし、それも、止むを得ないことだらう』

といつた。

忠彌は、すつかり當が外れた。

『止むを得ない、といつて一體、どういふ風に、止むを得ないのだらうか、拙者には、わけが分らん』

見る〳〵むつとした顏になつた。

『止むを得ない、といふのは、つまり正雪先生に渡されるだけを默つて、受取つて置くより外に仕方が無いだらうといふことサ。先生のことだ、いづれ、相當の考へがあるだらうから』

『さうかなア』

といつて、忠彌もホツと溜息をした、持前の癇癪も起さず、彼には似合はぬと溫和しいのは、寧ろ不思議である。

それは、相手が三郎兵衞だからである、もし是が他の者であつたら、それこそ大聲『馬鹿を言へ』と、横面の一つも張り飛ばすにきまつてゐる。

不思議なことに、三郎兵衞の前に出ると、別人かと思はれるほど溫和しい、三郎兵衞が猫なら、忠彌は鼠である。

なぜ、さうかといふと。

忠彌に取つて、三郎兵衞は同郷の先輩であつて、忠彌の一家が故郷の出羽の最上から、江戸へ來て、槍の道場を開いて、どうにか、かうにか、生活の出來るやうになつたのも、偏へに、三郎兵衞の、おかげである。

その上、年齢から行つても、人物、手腕から行つても、確に一、二枚がた、役者は上だと思つてゐるので、いかに、負けぎらひの忠彌でも、三郎兵衞にだけは頭が上らないのである。

『まあ〳〵焦慮らずに、安心して先生の裁量に一任するが宜い』

少々、氣の毒にも思へて三郎兵衞は、やさしく慰めた。

慰められて、忠彌はほどなく、三郎兵衞の家を辭したのであつた。

それを送り出して、座敷へ戻つた三郎兵衞。

『中途で若し、大事露顯に及ぶやうなことがあつたら、それはキツト、丸橋の失敗からであらうさ、正雪先生はよく言はれるが、どうも先生の心配が、ほんたうになりさうだ』

と、深き憂ひに沈みながら、獨言つのであつた。

廣告

北川外科　平市新川町　電四六四

第一線の慰問品ニハ
見不知羊羹と潮の華
平市五丁目　泉屋菓子店　電話六六八

おでん、やき鳥
小鳥燒も初めました。
お酒のあとに おけさめし
酒の店 味郷（みさと）　平市三田小路

根本產婦人科醫院
（病室完備）（入院隨時）
平市南町五二　根本莊次郎　根本貞雄　電話三四番

ダイナモ　バッテリー　四氣筒六氣筒　マグネット　礦山用エンヂン
久野電機　平市紺屋町五三　電話七二一番　振替東京一五、一〇四番

產科　婦人科　花柳病科
午前宅診　午後往診　入院隨意
井坂醫院　平市田町（元合津醫院跡）　電話五五九番

旅館 大幸館
私は平市出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄
電話下谷區六七七番　東京上野驛前 下谷郵便局横通角

▽……出前迅速
御料理 むぎとろ
是非！御試食下さい
平市田町紅小路　さつき　電話四八八番

新聞店員募集
（イ）將來新聞販賣ニテ身ヲ立テタキ人 二十才ヨリ三十二才マデ（二名）
（ロ）苦學ヲ目的トスル晝間通學ノ便アリ 意志强固奮鬪ノ青年ヲ望ム（二名）
主任ハ當地出身ニシテ充分理解ヲ以テ優遇給料其他ハ履歷書ト共ニ（イ）（ロ）何レカノ希望ヲ付シテ左記ヘ御照會ヲ乞フ
東京市小石川區關口町一四〇（市電停前）
東京日日新聞出張所（電話牛込六八五〇）

重田眼科
平驛前通り 元貯蓄銀行跡
眼科一般　眼鏡檢定
醫師 重田景治　平市田町一番地

和洋 建具 家具 テーブル 椅子
其他裝飾品一般 御用命は迅速に御努め致します。
諸官衙 各學校 御用達 製作販賣
平市五丁目四　片寄製作店　片寄小彌太　電話四八四番
十五、六歲見習職工 職工募集

平病院（平市元共濟病院跡 電話六四一番）
院主 院長 醫學博士 鈴木定藏
内科 小兒科　院長 鈴木定藏
内臟外科 一般外科 皮膚泌尿器科　副院長 高橋俊幸
レントゲン科 物理的療法科　部長 鈴木定藏
藥劑科　部長 吉本孝平
……診療時間……毎日午前八時ヨリ午後九時迄、夜間診療ニ從事ス（急患ハ此ノ限リニアラズ）

新車のお知らせ
斷然!!! 乘心地良い!!!
三七年型フォード
入車いたしました。
是非！御試乘の程を！
市内四丁目　スギタクシー　電二一七番

一、公債、株式、債劵 現物賣買
株式は一株より
債劵は一枚より
弊店儀開店未だ日淺きにも不拘、業務日に順調に運ばれ候事は是れ皆樣方の御後援の賜と感謝仕り候、尙此後とも一層御引立被下度御願申上候。敬白
福島縣平市田町二十五番地
（和）株式店　電話三六五番

戰時下第二の明治節
全民感激裡に奉祝

戰時下緊張裡に再び迎へたきのふの佳節は、晩秋らしい斷雲のたゞずまひはあつたが先づ以て晴天、秋陽を受けた戶每の日の丸に全市は明るく奉祝の氣が漲つた、兩縣社の明治節祭をはじめ式後各學校庭に展開された第七回体操祭のマスゲーム、各官衙の記念式典も滯り無く執り行はれ午後からは生憎降り出し雨さへ交つたが午前中からの婦人會總會（公會堂）に雨中爽たる青年体育（磐中）に催しの數々は何れも豫期の如く進められ極めて意義深き感激のこの日を送つた

銃後の決意强調
昨佳節に平婦人會總集

平婦人會總會は出征勇士遺家族慰安會を兼ね午前九時から市公會堂に開催、出席四百餘名

國歌奉唱、勅語奉讀、遙拜、默禱、戰死者慰靈祭、篠山副總理挨拶、會務報告、新幹部任命に次ぎ十ヶ年勤續役員副會長山崎菊子、常任幹事井上セン、樋口シヅ、方部幹部川崎トク、山崎里子、萩原たか、大和田コト、清野キヨ、蛭田イサ、藤田ミエ、有賀ヒデ、橋本キシ、門傳トミノ以上十三氏に記念品贈呈後來賓祝辭、晝食休憩の上午後一時から[illegible]山梨由氏の『總力戰と婦人の覺悟』と題する約一時間半に亘る講演に次ぎ銃後婦人の決意を强調、餘興として可憐な第二校女生徒の左記遊戲あり全員愛國行進曲を合唱萬歲三唱裡に夕刻散會した

日の丸行進曲、慰問袋、荒城の月、院庄、花吹雪、兎と狸、櫻井の血別、日本よい國

雨中、愈よ意氣上る
青年体育大會

市內青年團第一回体育大會は午前九時から磐中グラウンドに擧行、山崎團長挨拶青沼市長祝辭に次いで四百米競走から競技開始、午後から雨に祟られたが出場選手百餘の青年の意氣愈よ高らかに四時好成績に終了、八百米繼走は下平窪青年が捷つた

旭神社例祭
戰時下に於ける 警察[illegible]

平署鎭座旭神社の例祭は應召署僚の武運長久祈願を兼ね午前十一時半から縣社子鍬倉神社山部神官により執行し終つて會議室に淸宴を張り席上立澤平職業紹介所長の宮崎警察署長時代に於ける追憶と當地方の第一印象談等あり前平署長八卷胞次郎氏發聲で萬歲三唱散會した

佳節に輝く功勞者

立花氏伍長に進級

湯本町步兵上等兵立花澤氏は永年在鄕軍人分會役員及各種團体の幹部として青年學校及び地方青年の指導、風致改善公共事業、警察に盡し一廉により郷治の佳節伍長に特別進級した

陸相青訓指導員表彰

時局多端の折柄多年青年訓練に貢獻した左記三氏は昨三日の佳節に陸軍大臣から表彰された

△飯野村步兵芳賀時次△澤渡村同齋藤次男△小川村同鈴木貫一

鐵工夜間校
來月上旬から開設

平鐵工業組合では優良徒弟養成のため來月上旬から市公會堂に夜間學校を開設する、講師は元入山製作主任吉田賢吉氏外二名、授業時間午後七時から九時迄で豫本科に分れ修業年限二ヶ年授業料五十錢

旗日の貯金
平局で五百圓

平局では貯金强調週間中なる昨三日の祭日に當り平常通り貯金を受入れたが同日の取扱高は普通貯金四百九十二圓二錢月掛け八十圓で宣傳が遲れ馳せであつた爲め平日の約一割內外に過ぎなかつた、明後六日の『日曜』も亦同樣特別取扱ひをなすと

送炭況稍々凡調
去月下旬の增量僅少

需要季に入つた常磐炭界は依然一般事業方面の旺盛な物語る發送增加を示し、鐵道用の減少と云ふ常識的狀態を續けてゐる。即ち去月二十一日以降三十一日迄の統計によると

事業用四、九二〇車六一、九九四廻 鐵道用一、二四八車一七、五五二廻 合計六、一六八車六一、七八〇廻

で前年同期に比し

事業用（增差）一二四車二、二三四廻 鐵道用（減差）二六一車一、九八二廻

差引百三十七車の減に反し數量に於ては僅か乍ら二百五十二廻の增加を示し、全月分を通算すると前年から千百十一車七千九百七十六廻の增となつてゐる

川前農產物品評會

川前村で左記部落に農產物品評會開催

七日小白井、十四日桶賣　十五日川前

市內銀行團 赤井嶽登攀

市內貯蓄、農工、七十七、常陽各行支店長初め行員一同四十餘名は昨三日の佳節をトし体位向上を兼ね出征行員及皇軍の武運長久祈願祭を日の丸辨當にて赤井藥師に登山を決行し午後三時半下山した

井尻七三郎氏美擧

市內鍛冶町鐵物機械商井尻七三郎氏は昨三日の佳節を記念し磐城訓盲院に金三百圓、第二小學校に兒童の体重測定機一台を寄附した

入營兵歡送會

市では今年度入營兵のため來る二十一日午前九時から縣社子鍬倉神社で奉告祭を行ひ十時半から公會堂に歡送會を催す、會費五十錢

四倉で慰問袋

四倉町銃後會では町內から蒐集した慰問袋を二日百二十個送つたが更に來る十日頃百十個發送

九品寺住職獻金

市內九品寺住職遠藤心光師は金二圓を市軍事援護會へ寄附

縣青年視學委員來平

縣青年學校視學委員川俣工業學校長一ノ木市三郎氏は十六日平青年學校視察

物心兩方面を動員
―銃後觀念を高揚
市民の作興週間行事決る

既報、來る七日からの國民精神作興週間に際し市では其筋からの通牒に基き物心兩方面による運動で力强い市民の銃後意識を高揚することゝなり週間中の實施事項を左の如く決定した

△七日生活刷新家庭報國日（生活改善工夫）△八日出征軍人遺家族慰問（市軍事援護會で實施）△九日消費節約（節約による貯蓄報國）△十日詔書渙發記念日（各官衙學校會社で國民精神作興に關する詔書並に奉讀一週年に際し賜りたる勅語奉讀式擧行）△十一日克己精勵日（享樂節制粗食禁酒斷行）△十二日奉公植樹（奉公から記念植樹等）△十三日共同奉仕作業（出征軍人家族の勞力

防寒具時代に
時局反映

本年四月創始された支那事變特別稅法は長期戰下の新稅目として地方的にも時局柄其の意義は實に深長なるものあるので其の實施に就いては平稅務署でも今春各地に懇談會を催しその施行上に遺憾無きを期したが課稅の對象たる品目が頗る複雜多岐に亘る爲め未だ理想の域に達せぬばかりか愈よ需要季に入らんとするシャツ、ジャケツ、セーター其他メリヤス製品等の如き本稅創設以來の季節的新課稅品が日を追ふて多數市場に取引さるゝ時季となつたので同署では更に之ら商品中納稅上の遺算無きを期する爲め注意旁々左記日割により取扱方法、記帳

義務を誤らぬやう
事變特別稅法の座談會
平稅務署が各地に開催

申告等に就き再び町村役場に懇談會を開催する事になつた

七日＝平稅務署（集合區域）平、神谷、飯野、夏井、高久、好間、赤井、內郷、永戶、磐渡、三阪

八日＝江名町役場（江名、豐間）出張官菊地課長、湯田屬

九日　小名濱（小名濱、鹿島、泉、玉川、渡邊）目黑屬

八日　四倉（四倉、大野、大浦）

九日　小川（上下小川、赤井の一部、川前）菊池課長、伊藤屬

八日　上遠野（上遠野、入遠野、田人）

九日　湯本（湯本、磐崎）湯田屬

八日　植田（植田、錦、山田、田人の一部）

九日　勿來（川部、勿來）村田屬

物價統制指導委員決る

[illegible]、取締官廳と一般業者の中間機關たる物價統制指導委員は昨三日平署から左の諸氏が囑託された

（吳服商）柏原幸次郎、伊關房治（洋服商）佐川三良、永山小平（洋品商）猪狩庄平、中野庄吉（染色業）鈴木留五郎（佐官業）鈴木市三、高田敬藏（鐵鋼業）團邊忠造、佐藤源吉（木炭商）安齋金次、佐藤敬次（製靴工業）草野晋直、菊總現七（自轉車商）鈴木彌太郎、田村岩雄（米穀商）菅本庄治、梅原利三郎、（石炭商）阿部政右衛門、高橋龜松（酒類商）永山勇吉、五十嵐小平（履物商）新妻愼治、田口辰雄（海產物商）松崎信正（石油商）關內正一（古物商）近藤紫次（板金商）菊田萬吉（菓子商）金子𠮷治（金物商）諸橋安彦（製綿業）吉村安治郎（荒物商）松崎惠太郎（果菜商）小島一夫（時計商）大谷武雄（砂糖商）白土七太郎（電機商）富永一郎（陶磁器）松崎長三郎（自轉車附屬品商）佐藤岩雄（商工會代表）高木忠三郎（家具商）佐々木俊男

磐城地方の獅子舞と若者組（五）
鄕土研究として　山口彌一郎

舞は內郷村住吉神社のはおばこ踊、尺八返し、花吸ひ、弓潜、獅子とり三ひ、獅子がくし、弓潜であるが、之は名稱、そ異り、玉川村岡小名では、こなれ大同小異で、草野村北うかけはづし、花吸ひ、ぼ神谷のは花吸ひ、狂、弓合んでん舞　ぽんでんちやらと言ひ。高久村八幡神社のれで、獅子舞等である。こは稍々種類が多く、三匹散れ等の音曲、舞は民俗藝術らし、一匹散らし、扇とりの方面の研究で到底私共は研究の柄でもなく、解らないが傳來の獅子が釋傳の獅子吼にかたどつたり、天下泰平の意味が含めてあつたのに對し、此等の舞は又何を非常に複雜さ人間同樣に子二匹が牝獅子一匹を爭ひ或は牝獅子の姿が隱さなくなつた悲しみ。見え出されて喜んだりする。之等は日本人の動物に對する感情の一つを現はしてゐると思はれる。內郷村住吉神社のシ子舞の術は特に民俗藝術方面に興味をもたれてゐる十數人を招待して見て戴いたが最初の花吸ひの舞がな哀愁を帯びた笛につれて花麗の周圍を踊り狂ふ樣を見入つた一同はたゞたゞ感嘆する外言葉もなく。すぐ足許に斯の如き藝術が餘り世に出ずにゐた事にむしろ奇異の感を抱いたのであつた。高久村の鈴木泉郎氏が來訪されて是非八幡神社のシ子舞を見ないかと勸められ實は多忙で練習期間に行けずにゐた處、葉書や電話で再三催促され、おしせまつて遂に祭禮の夕刻迫り着き一應練習をみせてもらひ、夜は行列の後について八幡神社に行き、暗の杉の木の間の境內に演ぜられた夢の樣な、遠い昔の物語を思はせる樣な舞を見入つたのであつた。

座談會の形式で
日頃の丹精に陶醉
昨日阿部氏宅の菊花競べ

每年平市の秋を飾る年中行事として開催して來た菊花大會は本年は時局に鑑みて之を遠慮し單に菊花研究座談會として昨三日午前十時より阿部政右衛門氏宅に開催したが今年の會員（三十五名）が日頃丹精の切花四五本宛を持ち寄り水戶市千秋會長和知忠聽氏により審查開評の結果出品八十有餘株中左の通り入賞確定した

競技菊花ノ部

花名高須ノ譽

一、優等一席阿部コト　二席鈴木喜一郎　三席渡邊喜重　一等一席竹原次英　二席藤田軍治郎　三席柴野房太郎

一般菊花の部

優等一席桃太郎渡邊喜重　二席菊姬阿部コト　三席櫻鹿の惠木幡得光　一等一席千秋冠阿部コト　二席櫻鹿の花藤田軍治郎　三席四季の綠阿部コト　二等一席醉光錦謝　二席國華德鑑田軍治郎　三席國光の舞竹原次英　三等一席櫻鹿の惠柴野房太郎　二席同三席野菊の月阿部コト

尙出品物は本月十日迄觀覽出來る由

水戶大會で見事に入賞

一昨二日開催された水戶市千秋會菊花大會に平市から出品した左記名花は見事入選平市菊花界の爲め萬丈の氣を吐いた

（競技の部花名天覽記念）優等二席阿部コト（一般の部花名醉光の錦）一等七席同　桃太郎一等十席渡邊喜重

古泉氏の美擧

皇軍の華古泉大尉の嚴父古泉延際氏は別項婦人會の戰死者慰靈祭に臨み同會活動資金として十圓寄附

伊豆少將講演

平驛では國民精神作興週間第一日目の七日午前九時から驛樓上に陸軍少將伊豆凡夫氏を招いて講演を聽く

本店で江の島料理

味覺の秋を待ち構へた市內住吉屋本店では愈よ自慢の雛鳥の水たきと獨特の江の島料理、同鍋を始めた

獻金

田人村旅人藥商淺井常次郎氏が金二十圓、植田町鈴木くにさん外十五名で金十圓を國防獻金

朝鮮から

每日新聞お送り下さいまして誠に有難う御座います。當地は國境で種々異國情景が御座います。種々からそれらをお知らせする積りで居りましたが小生多忙の爲故仲々それる出來ません、惡しからず御了承願ひ上げます。昨今は漢口陷落祝賀で御地もさぞ盛大に行はれて居ることでせう。當地では支那人や半島同胞が物凄い假裝行列をやつて居ます。其他の物等皆々內地人にも劣らぬ祝賀氣分が滿溢してゐるは誠に愉快なものであります。當地は以前の樣に殺風景なものでなく危險なものでもありません、二三年前迄は死体がゴロゴロしてゐたり幼兒を籠に入れて賣買したり人間の○○場なんかありましたが今では直徑十里の國際都市計畫さへ行はれる程ですから今後も益々發展することでせう。鐵橋の右側にもう一つ二階建ての大鐵橋を建設中で脚丈けは出來上り昭和十五年竣功の見込みであります。この橋に殆ど每日犯罪者を出してゐます。獵奇的な密輸事件もありますが後で御知らせ致しませう

貴社の御繁榮を祈ります。

ZS生

鼠賊

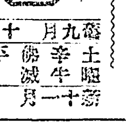
本署で四日檢擧した栃木縣與岡市生れ窃盜前科六犯伊澤豐三郎（五〇）は市內才槌小路某家から洋傘一本の外數件の盜み自白

お披露目

凋落の秋に花柳方面丈けは大活況、此程一度に三人の出現。曰く橋家豆千代、潮月小菊、榮家の牛玉千鶴子以上。

（小名濱測候所發表）

昭和十三年十一月五日　土曜　九月　辛牛　佛滅　四十　平　宿



▲一白　定褒さへ堅く守り居れば大なる支障はなし▲二黑　交かんする文書は注意せざれば變の種となる▲三碧　人より申込まるる事は成るべく避くるが安全▲四綠　守勢をとり表に現れずちんもくするが無難の日▲五黃　名譽と人格をおもんずる時は運氣向上し行く日▲六白　放まんなれば物みだれん氣を締め進まるべし▲七赤　新しき運命を開くべき吉祥の日口舌は注意▲八白　照りても降りても本業離れず勵めば吉日となる▲九紫　初めなつつしみ意まんなければ末吉となるべし

外科一般
內臟外科　肛門病科　皮膚科　泌尿生殖器科（婦人科・性病科）　專門
（入院隨意）
白土醫院
平市字鍛冶町　電二七九

新築落成披露
帝都一流の割烹師を招きまして江戶前料理を初めました
御宴會の御用命
淺酌の小座敷
割烹　酒喜家
平市田町　電一七一

一升貯蓄報國
古風床しき置物にもなります
酒は白菊
景品附特賣
特選大吟釀　白菊　一升　金貳圓
一升お買上每に新案わらず出る貳久貯金器壹個差上ます。早い者勝ち
▽每月廿日公休日△
廣瀨支店　電話五十四番